

# 軽動詞残余型省略構文\*

—摘出の可能性の観点から—

坂本 祐太  
明治大学  
yuta@meiji.ac.jp

## 1 序論

### 1.1 日英語の動詞句省略

- 英語：動詞句省略可能 (cf. Wasow 1972, Sag 1976, Johnson 2001)
  - (1) You do not [<sub>VP</sub> like VP-ellipsis], but I do [~~<sub>VP</sub> like VP-ellipsis~~].
- 日本語：動詞句省略不可能 (cf. Hinds 1973, Kuno 1978)
  - (2) a. 太郎は [<sub>VP</sub> 河豚をさばい] た  
b. \*花子も [~~<sub>VP</sub> 河豚をさばい~~] (し) た
- Fujii (2016), Funakoshi (2019) : 先行する動詞句に「とりたて詞」が付加すると、動詞句省略が可能になる。
  - (3) a. 太郎は [<sub>VP</sub> 河豚をさばき]-さえ した  
b. 花子も [~~<sub>VP</sub> 河豚をさばき~~]-さえ した

### 1.2 本研究の概要

- (3b)のような事例に対する動詞句省略分析が妥当かどうか、摘出の可能性の観点から検証を行う。
  - ▶ (3b)のような事例は、動詞句省略ではなく項省略 (cf. Oku 1998, Saito 2007, Takahashi 2008a, b)による分析が妥当であると主張する。
  - ▶ 軽動詞残余型省略と繰り上げ vs. コントロール及び二重目的語構文の相互作用を考察し、新たな理論的知見を得ることを目指す。

---

\* 本研究の一部は *Japanese/Korean Linguistics* 28 (J/K28)にて発表を行い、その際に Peter Sells 氏と富岡諭氏から非常に有益なコメントをいただいた。この場をお借りして感謝申し上げます。加えて、森山倭成氏にも厚く御礼申し上げます。本研究は科研費 20K13064 及び 23K00594 の助成を受けたものである。

## 2 動詞句省略位置からの抽出の可能性

### 2.1 英語の動詞句省略

- 英語の動詞句省略：移動の種類に関係なく、一様に当該位置から抽出可能

#### (4) *wh* 移動（顕在的 $\bar{A}$ 移動）

I know which book<sub>1</sub> Max [VP thinks Mary read t<sub>1</sub>], and **which book** Bill doesn't [VP Δ].  
(Fiengo and may 1994:229)

#### (5) 繰り上げ（顕在的 A 移動）

An American runner [VP seems to Bill to have won a gold medal], and a Russian athlete does [VP Δ] too.  
(Fox 1995, 2000; cf. May 1977)

#### (6) 受動化（顕在的 A 移動）

Jim claims that they<sub>1</sub> can [VP be distinguished t<sub>1</sub>], but Tina claims that *they*<sub>2</sub> can't [VP Δ].  
(cf. Levin 1986)

#### (7) 焦点移動（顕在的移動：疑似空所化構文）

I rolled up a newspaper, and Lynn did **a magazine** [VP Δ].  
(Lasnik 1999:142)

#### (8) 空演算子移動（非顕在的 $\bar{A}$ 移動）

- a. The galaxy contains more stars than **Op** the solar system does [VP Δ].  
(Kennedy 2002:555)
- b. Dulles suspected everyone **Op** that Anglton did [VP Δ].

### 2.2 日本語の“動詞句省略”

- 日本語の“動詞句省略”：非顕在的移動（語順に影響を与えない移動）を介した抽出のみ、当該位置から可能

#### 2.2.1 長距離かき混ぜ：顕在的 $\bar{A}$ 移動

- 埋め込み節を含んだ“動詞句省略”：可能（な場合がある）

- (9) a. 太郎は [VP [CP ジョンがリンゴを盗んだと]言い]-さえ した  
b. 花子も [VP Δ] した

- “動詞句省略”位置からの長距離かき混ぜ（顕在的  $\bar{A}$  移動；Tada 1990, Saito 1992）を介した抽出：不可能

- (10) a. リンゴを<sub>1</sub> 太郎は [VP [CP ジョンが t<sub>1</sub> 盗んだと]言い]-さえ した  
b. バナナを<sub>2</sub> 花子は [VP [CP ジョンが t<sub>2</sub> 盗んだと]言い]-さえ した  
b'. \*バナナを 花子は [VP Δ] した

### 2.2.2 目的語上昇・受動化移動：顕在的 A 移動

- “動詞句省略”位置からの目的語上昇（顕在的 A 移動；Tanaka 2002）を介した摘出：不可能

(11) a. 太郎は [VP [CP メアリーを天才だと]言い]-さえ した  
b. 花子も [VP Δ] した

(12) a. 太郎はメアリーを<sub>1</sub> [VP [CP t<sub>1</sub> 天才だと]言い]-さえ した  
b. 花子はナンシーを<sub>2</sub> [VP [CP t<sub>2</sub> 天才だと]言い]-さえ した  
b'. \*花子はナンシーを [VP Δ] した

- “動詞句省略”位置からの受動化移動（顕在的 A 移動；Yatsushiro 1999, Ishizuka 2010）を介した摘出：不可能

(13) 太郎が<sub>1</sub> [VP 山田先生に t<sub>1</sub> 叱られ]-さえ したのには驚かなかったが、  
a. 花子が<sub>2</sub> [VP 山田先生に t<sub>2</sub> 叱られ]-さえ したのには驚いた  
b. \*花子が<sub>2</sub> [VP Δ] したのには驚いた

### 2.2.3 節内かき混ぜ：顕在的移動

- “動詞句省略”位置からの節内かき混ぜ（顕在的  $\bar{A}/A$  移動；Saito 1992, Nemoto 1993）を介した摘出：不可能

(14) a. 太郎は メアリーを<sub>1</sub> [VP t<sub>1</sub> 叱り]-さえ した  
b. 花子も 彼女を<sub>2</sub> [VP t<sub>2</sub> 叱り]-さえ した  
b'. \*花子も 彼女を [VP Δ] した  
b''. \*彼女を 花子も [VP Δ] した

### 2.2.4 空演算子移動：非顕在的 $\bar{A}$ 移動

- “動詞句省略”位置からの空演算子移動（非顕在的  $\bar{A}$  移動；比較削除構文 Kikuchi 1987, 分裂文 Hoji 1990）を介した摘出：可能

(15) 太郎は [Op<sub>1</sub> 花子が [VP Δ] したより(も)]多くの河豚を捌きさえした

(16) a. Op<sub>1</sub> 太郎が [VP t<sub>1</sub> 現金を貢ぎ]-さえ したのは 花子にだ  
b. Op 次郎が [VP Δ] したのは 麻衣にだ

### 3 動詞句省略と動詞句前置の関連性

- 日本語: 非対格動詞及び受動化を伴う動詞句 = 動詞句前置 (Hoji, Miyagawa, Tada 1989)・動詞句省略が不可能

(17) 非対格構文と動詞句前置・動詞句省略

- \*[t<sub>i</sub> 降り]-さえ 雨<sub>i</sub>がした
- \*雨<sub>i</sub>が[<sub>VP</sub> t<sub>i</sub> 降り]-さえしたのは驚かなかったが、雪が[<sub>VP</sub> Δ]したのは驚いた

(18) 受動化構文と動詞句前置・動詞句省略

- \*[t<sub>i</sub> 食べられ]-さえ りんご<sub>i</sub>がした
- \*しなびたりんごが<sub>i</sub> [t<sub>i</sub> 食べられ]-さえしたのは驚かなかったが、腐ったりんごが[<sub>VP</sub> Δ]したのは驚いた

- 空演算子移動を伴う動詞句 = 動詞句前置可能 (cf. Saito 2015)

(19) 分裂文と動詞句前置

- みんなが 花子が[<sub>VP</sub> t<sub>i</sub> 付き合い]-さえしていると思っているのは ビルと<sub>i</sub>だ
- ?[<sub>VP</sub> t<sub>i</sub> 付き合い]-さえ みんなが 花子がしていると思っているのは ビルと<sub>i</sub>だ

(20) 比較削除構文と動詞句前置

- 太郎が 花子が[<sub>VP</sub> t<sub>i</sub> 捌き]-さえしたと 思っているよりも ビルは多くの河豚を捌きさえした
- ?[<sub>VP</sub> t<sub>i</sub> 捌き]-さえ 太郎が 花子がしたと 思っているよりも ビルは多くの河豚を捌きさえした

(21) cf. Saito 1989

- \*花子がいると ソウルに 太郎が思っている
- \*行くことが ソウルまで 太郎に命じられた

- Takita (2010) : PBC 違反は Fox and Pesetsky (2005)の線形化違反に還元される

- Saito (2015) : 空演算子移動の痕跡が PBC 違反を引き起こさないのは、空演算子移動が語順に影響を与えない移動であるとする主張

- 空演算子移動を伴う動詞句 = 動詞句省略可能 (cf. (15) (16))

(22)

	頭在的抽出	非頭在的抽出
英語の動詞句省略	✓	✓
日本語の“動詞句省略”	✗	✓

- 日本語の“動詞句省略”は英語の動詞句省略とは異なった操作により派生されるべきである
  - ▶ 抽出の可能性のパターンが異なる
- 日本語の“動詞句省略”位置を音声を持たない代用形 (pro) と分析することは不可能である
  - ▶ 代用形から抽出は一様に許されない (cf. Hankamer and Sag 1976, Depiante 2000, Johnson 2001, Merchant 2013)

(23) 参考

\*I know which book<sub>1</sub> Max [<sub>VP</sub> thinks Mary read t<sub>1</sub>], and **which book** Bill doesn't [<sub>VP</sub> do it].

## 4 日本語の“動詞句省略” (Fujii 2016, Funakoshi 2019) = 項省略

### 4.1 項省略

- 日本語では、空項を派生する手段として、空の代名詞 (代用形) の pro 以外に項を直接省略する操作である項省略が利用可能であると一般的に仮定されている (cf. Oku 1998, Saito 2007, Takahashi 2008a, b)。

- (24) a. 太郎は [<sub>DP</sub> おにぎりを] 食べた  
 b. 花子も [<sub>DP</sub> pro] 食べた  
 b'. 花子も [~~<sub>DP</sub> おにぎりを~~] 食べた

- (25) a. 太郎は [<sub>CP</sub> メアリーが本を読んだと] 思った  
 b. 花子も [<sub>CP</sub> pro] 思った  
 b'. 花子も [~~<sub>CP</sub> メアリーが本を読んだと~~] 思った

- ▶ 項省略位置からは、顕在的抽出は不可能だが、非顕在的抽出は可能である (Sakamoto 2019, 2020)。

(26) 顕在的抽出：長距離かき混ぜ (Shinohara 2006, Saito 2007, Takita 2010)

- a. 本を<sub>1</sub> 太郎は [<sub>CP</sub> 花子が t<sub>1</sub> 読んだと] 思った  
 b. 雑誌を<sub>2</sub> 次郎は [<sub>CP</sub> 花子が t<sub>2</sub> 読んだと] 思った  
 b'. \*雑誌を 次郎は [<sub>CP</sub> Δ] 思った

(27) 顕在的抽出：目的語上昇 (Tanaka 2008)

- i. a. 太郎は [<sub>CP</sub> メアリーを天才だと] 言った  
 b. 花子も [<sub>CP</sub> メアリーを天才だと] 言った  
 b'. 花子も<sub>2</sub> [<sub>CP</sub> Δ] 言った
- ii. a. 太郎はメアリーを<sub>1</sub> [<sub>CP</sub> t<sub>1</sub> 天才だと] 言った  
 b. 花子もメアリーを<sub>2</sub> [<sub>CP</sub> t<sub>2</sub> 天才だと] 言った  
 b'. \*花子もメアリーを<sub>2</sub> [<sub>CP</sub> Δ] 言った

(28) 非頭在的抽出：空演算子移動 (Sakamoto 2019, 2020; cf. Takahashi 2013)

- a. [Op<sub>1</sub> [CP 太郎が t<sub>1</sub> 読んだと] メアリーに言われているより (も) ] 花子はたくさん本を読んでいた
- b. さらに、[Op<sub>2</sub> [CP 太郎が t<sub>2</sub> 読んだと] ナンシーに言われているより (も) ] 彼女はたくさん本を読んでいた
- b'. さらに、[Op<sub>2</sub> [CP Δ] ナンシーに言われているより (も) ] 彼女はたくさん本を読んでいた

(29)

	頭在的抽出	非頭在的抽出
英語の動詞句省略	✓	✓
日本語の“動詞句省略”	✗	✓
日本語の項省略	✗	✓

## 4.2 分析

- 抽出の可能性のパターンが同一：日本語の“動詞句省略”は項省略によって派生される。

(30) Saito (2006)

- a. とりたて詞 (e.g. 「さえ」) は、それが付加した動詞句を名詞化する
- b. 「する」は本動詞である

- (31) a. 太郎は [VP[+N] 河豚をさばき]-さえ した  
 b. 花子も [~~VP[+N] 河豚をさばき~~]-さえ した

- (32) a. LF コピーは、既に書き出しを受けた要素をリサイクルする操作である  
 (Chung, Ladusaw, and McCloskey 2006, 2011, Fortin 2007)  
 b. 書き出しは、統語的対象物から音韻素性を取り除く操作である  
 (Nissebaum 2000)

- (33) a. 太郎は [VP[+N] 河豚をさばき]-さえ<sub>{形式・意味・音韻}</sub> した

↓ 項省略 (LF コピー)

- b. 花子も [VP[+N] 河豚をさばき]-さえ<sub>{形式・意味}</sub> した

- 頭在的抽出：不可能

- (10) a. リンゴを<sub>1</sub> 太郎は [VP[+N] [CP ジョンが t<sub>1</sub> 盗んだと] 言い]-さえ した  
 b'. \*バナナを 花子は [VP[+N] Δ] した

- 非頭在的抽出：可能

- (15) 太郎は [Op 花子が [VP[+N] Δ] したより(も)]多くの河豚を捌きさえした

## 5 帰結

### 5.1 コントロール vs. 繰り上げ

- (34) a. 太郎は花子に<sub>i</sub> [VP PRO<sub>i</sub> リンゴを盗むように命じ]-さえ した  
b. 次郎は綾子に<sub>j</sub> [VP PRO<sub>j</sub> リンゴを盗むように命じ]-さえ した  
b'. 次郎は綾子に [VP Δ] した

- (12) a. 太郎はメアリーを<sub>1</sub> [VP [CP t<sub>1</sub> 天才だと]言い]-さえ した  
b. 花子はナンシーを<sub>2</sub> [VP [CP t<sub>2</sub> 天才だと]言い]-さえ した  
b'. \*花子はナンシーを [VP Δ] した

➤ コントロール構文の PRO 分析への経験的証拠 (*pace* 移動分析, Hornstein 1999)

### 5.2 二重目的語構文

- (35) a. 太郎は花子に花束を送った  
b. 太郎は花束を花子に送った

• 基底生成分析 (Miyagawa 1997, a.o.)

- (36) a. Subj [VP<sub>1</sub> IO [VP<sub>2</sub> DO V] V]  
b. Subj [VP<sub>1</sub> DO [VP<sub>2</sub> IO V] V]

• かき混ぜ分析 (Hoji 1985, a.o.)

- (37) a. Subj [VP<sub>1</sub> IO [VP<sub>2</sub> DO V] V]  
b. Subj DO<sub>1</sub> [VP<sub>1</sub> IO [VP<sub>2</sub> t<sub>1</sub> V] V]

➤ 本研究の分析の下で以下の対比を考察すると、かき混ぜ分析が支持される。

- (38) a. 太郎は花子に花束を送り-さえ した  
b. 次郎は綾子に [VP Δ] した  
b'. \*次郎は指輪を [VP Δ] した

- (39) a. 太郎は花束を花子に送り-さえ した  
b. 次郎は綾子に [VP Δ] した  
b'. \*次郎は指輪を [VP Δ] した

## 6 結論と残された問題

### 6.1 まとめ

- (3) a. 太郎は 河豚をさばき-さえ した  
b. 花子も ~~河豚をさばき-さえ~~ した

- 摘出の可能性の観点から検討すると、項省略と同様の統語的特性を示す。  
➤ 動詞句省略分析ではなく、LF コピーによる項省略分析が妥当だと考えられる。

### 6.2 本動詞としての「する」<sup>1</sup>

- 本動詞「する」は、尊敬語化及び「できる」との置き換えが可能である。

- (40) a. 山田先生はそれをした  
b. 山田先生はそれをなされた

- (41) a. 山田先生はそれをする  
b. 山田先生はそれができる

- 「XがVP さえする」の「する」は尊敬語化及び「できる」との置き換えが不可能である (cf. Kishimoto 2011)。

- (42) a. 山田先生は酒を飲みさえした  
b. \*山田先生は酒を飲みさえなされた

- (43) a. 山田先生は酒を飲みさえする  
b. \*山田先生は酒を飲みさえできる

## 参考文献

- Chung, Sandra, William Ladusaw, and James McCloskey. 2006. Sluicing revisited. Paper presented at the LSA 2006 meeting.  
Chung, Sandra, William Ladusaw, and James McCloskey. 2011. Sluicing(:) between structure and inference. In *Representing Language: Essays in Honor of Judith Aissen*, ed. by R. GutiérrezBravo, L. Mikkelsen and E. Potsdam. California Digital Library eScholarship Repository, 31–50. Linguistic Research Center, University of California, Santa Cruz.  
Depiante, Marcela Andrea. 2000. The syntax of deep and surface anaphora: A study of null complement anaphora and stripping/bare argument ellipsis. Doctoral dissertation, University of Connecticut, Storrs.

<sup>1</sup> 以下の問題点は森山倭成氏に指摘していただいた。この場を借りて、御礼申し上げます。また、2013年6月3日に開催された Setagaya Linguistics Circle において、会場より(42b)及び(43b)の文法性判断に疑義が出たことも付記したい。例えば(43b)に関して言えば、「山田先生がテキーラを飲みさえできたのには驚いた」とすると容認度が上がるように感じられる。



- Fiengo, Robert, and Robert May. 1994. *Indices and identity*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Fortin, Catherine. 2007. Indonesian sluicing and verb phrase ellipsis: Description and explanation in a minimalist framework. Doctoral dissertation, University of Michigan, Ann Arbor.
- Fox, Danny. 1995. Economy and scope. *Natural Language Semantics* 3:283–341
- Fox, Danny. 2000. *Economy and semantic interpretation*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Fujii, Tomohiro. 2016. Verb-raising, *su*-insertion, the stranded affix filter, and economy of derivation. *Nanzan Linguistics* 11, 1–14.
- Funakoshi, Kenshi. 2019. Verb-raising and VP-fronting in Japanese. *The Linguistic Review* 37:117–146.
- Gengel, Kirsten. 2007. Focus and ellipsis: A generative analysis of pseudogapping and other elliptical structures. Ph.D. dissertation, Institut für Linguistik/Anglistik der Universität Stuttgart.
- Hankamer, Jorge, and Ivan Sag. 1976. Deep and surface anaphora. *Linguistic Inquiry* 7:391–428.
- Hinds, John. 1973. On the Status of the VP Node in Japanese. *Language Research* 9:44–57.
- Hoji, Hajime. 1985. Logical form constraints and configurational structure in Japanese. Doctoral dissertation, University of Washington, Seattle.
- Ishizuka, Tomoko. 2010. Toward a unified analysis of passives in Japanese. Ph.D. dissertation, University of California, Los Angeles.
- Jayaseelan, K. A. 1990. Incomplete VP deletion and gapping. *Linguistic Analysis* 20:64–81.
- Johnson, Kyle. 2001. What VP-ellipsis can do, and what it can't, but not why? In *The handbook of contemporary syntactic theory*, ed. by Mark Baltin and Chris Collins, 439–479. Oxford: Blackwell.
- Kennedy, Christopher. 2002. Comparative deletion and optimality in syntax. *Natural Language and Linguistic Theory* 20:553–621.
- Kikuchi, Akira. 1987. Comparative deletion in Japanese. Ms., Yamagata University.
- Kishimoto, Hideki. 2011. Empty verb support as a morphological adjustment rule. *Snippets* 23:7–8.
- Kuno, Susumu. 1978. Japanese: A Characteristic OV Language. In *Syntactic typology*, ed. W. P. Lehmann, 57–138. Austin: University of Texas Press.
- Lasnik, Howard. 1995. A note on pseudogapping. In *Papers on minimalist syntax*, ed. by Rob Pensalfini and Hiroyuki Ura, 143–163. Cambridge, MA: MIT Working Papers in Linguistics.
- Lasnik, Howard. 1999. Pseudogapping Puzzles. In *Fragments: Studies in ellipsis and gapping*, ed. by Shalom Lappin and Elabbas Benmamoun, 141–174. Oxford: Oxford University Press.
- Levin, N. 1986. Main Verb Ellipsis in Spoken English. Doctoral Dissertation, Ohio State University.
- May, Robert. 1985. *Logical form*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Merchant, Jason. 2013. Diagnosing ellipsis. In *Diagnosing syntax*, ed. by Lisa L. Cheng and Norbert Corver, 537–542. Oxford: Oxford University Press.
- Miyagawa, Shigeru. 1997. Against optional scrambling. *Linguistic Inquiry* 28:1–25.
- Nemoto, Naoko. 1993. Chains and case positions: A study from scrambling in Japanese. Doctoral dissertation, University of Connecticut, Storrs.
- Nissenbaum, Jon. 2000. Investigations of covert phrase movement. Doctoral dissertation, MIT, Cambridge, MA.
- Oku, Satoshi. 1998. A theory of selection and reconstruction in the minimalist program. Doctoral dissertation, University of Connecticut, Storrs.
- Sag, Ivan. 1976. Deletion and logical form. Doctoral dissertation, MIT, Cambridge, MA.

- Saito, Mamoru. 1985. Some asymmetries in Japanese and their theoretical implications. Doctoral dissertation, MIT, Cambridge, MA.
- Saito, Mamoru. 1989. Scrambling as semantically vacuous A'-movement. In *Alternative conceptions of phrase structure*, ed. by Mark Baltin and Anthony Kroch, 182–200. Chicago: University of Chicago Press.
- Saito, Mamoru. 1992. Long-distance scrambling in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics* 1:69–118.
- Saito, Mamoru. 2006. Expletive replacement reconsidered: Evidence from expletive verbs in Japanese. In *Form, structure, and grammar: A festschrift presented to Günther Grewendorf on occasion of his 60th birthday*, ed. by P. Brandt and E. Fuss, 255–273. Berlin: Akademie Verlag.
- Saito, Mamoru. 2007. Notes on East Asian argument ellipsis. *Language Research* 43:203–227.
- Saito, Mamoru. 2015. Remnant movement, radical reconstruction, and binding relations. In *Remnant movement*, 221–256.
- Sakamoto, Yuta. 2019. Overtly empty but covertly complex. *Linguistic Inquiry* 50:105–136.
- Shinohara, Michie. 2006. On some differences between the major deletion phenomena and Japanese argument ellipsis. Ms., Nanzan University.
- Tada, Hiroaki. 1990. Scrambling(s). Paper presented at the Workshop on Japanese Syntax, Ohio State University.
- Takahashi, Daiko. 1993. Movement of WH-phrases in Japanese. *Natural Language and Linguistic Theory* 11:655–678.
- Takahashi, Daiko. 2008a. Noun phrase ellipsis. In *The Oxford handbook of Japanese linguistics*, ed. by Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito, 394–422. New York: Oxford University Press.
- Takahashi, Daiko. 2008b. Quantificational null objects and argument ellipsis in Japanese. *Linguistic Inquiry* 39:307–326.
- Takezawa, Koichi. 1987. A configurational approach to case-marking in Japanese. Doctoral dissertation, University of Washington, Seattle.
- Takita, Kensuke. 2018. Antecedent-contained clausal argument ellipsis. *Journal of East Asian Linguistics* 27:1–32.
- Tanaka, Hidekazu. 2002. Raising to object out of CP. *Linguistic Inquiry* 33:637–652.
- Tanaka, Hidekazu. 2008. Clausal complement ellipsis. Ms., University of York.
- Wasow, Thomas. 1972. Anaphoric relations in English. Doctoral dissertation, MIT, Cambridge.
- Yatsuhiro, Kazuko. 1999. Case licensing and VP structure. Doctoral dissertation, University of Connecticut, Storrs.